

IMAGINE ROTARY

2022-23年度 RI会長／ジェニファー・ジョーンズ
RI.D2590ガバナー／志村 雄治
横浜旭RC会長／安藤 公一

「想像してください、私たちがベストを尽くせる世界を。
私たちは毎朝目覚めるとき、その世界に変化をもたらせると知っています。」

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-37-3 NUTS1階／〒241-0821
TEL.045-465-6702／FAX.045-465-6712
http://yokohamaasahirc.cho88.com
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 二俣川相鉄ライフ 4Fコミュニティサロン
例会日 毎週水曜日／12時30分～1時30分



横浜市幼稚園協会へエコペーパー石鹸配布



ガールスカウトとクリーン作戦



鎌倉・江の島へ親睦旅行

2023年2月22日 第2496回例会 VOL.54 No.29

- 司会 SAA 岡田 隆
- 開会点鐘 会長 安藤 公一
- 出席報告

会員数	18名	本日の出席数	12名
本日の出席率	70.59%	修正出席率	83.33%

■本日の欠席者

市川、宋、中谷、福村、二宮

■他クラブ出席者

新川（地区）

■皆出席祝い

安藤会員 18年
北澤会員 10年



■会長報告

先ずは、新川さんお帰りなさい。地区ポリオ委員長としてのパキスタンでの活動お疲れ様でした。詳しくはご本人より後ほどお話し頂けることと思います。

明日の2月23日は、ロータリー創立記念日です。118年前の1905年に当時36歳のポール・ハリスが仲間と共に設立しました。

2週間前に発生したトルコ南東部・シリア北西部にまたがる地域でのマグニチュード7.5を越える2回の大地震では、既に死者は46000名を越えており、予測された以上の大災害となりました。数日前にマグニチュード6を越える余震がおきたとの報道もあり各国から駆け付けた救援部隊の状況も心配されます。被災された方々へ心よりのお見舞いを申し上げます。地区から支援の寄付要請がきましたので回します。

2月はロータリーでは平和と紛争予防、紛争予防月間となっていますが、皮肉にも、ロシアのウクライナ侵略が始まったのが2月24日でした。それから1年が経とうとしています。昨日報道されていたプーチン大統領の年頭教書演説では相変わらず我々にはとても理解できない、独りよがりの「正当性」を主張していました。早く自らの非を認め、一日も早いウクライナからの撤退と停戦を進めて欲しいと願っています。ウクライナの子供達が身の安全を過度に意識することなくのびのびと遊び学べる日が一日も早く戻ってくることを望んでいます。

先週例会時には寒波が来ていましたが、その後週末にかけて気温が上昇し、日曜日には春一番が吹き荒れ、その影響でスギ花粉の大飛散が発生しています。10年に1度の花粉の大飛散で私の周りでも花粉症の発症している方が増えています。季節の変わり目は1日の寒暖差も広がってきて、体調管理が難しくなっています。健康管理には一層の注意を払っていきたくと思っています。

スポーツでは、開幕まであと2週間と迫ったWBCの話題が連日報道されています。史上最強とも言われている今回の侍ジャパンの活躍が楽しみです。

▷地区関係・クラブ関係

1) 横浜市信任副校長の「短期企業等研修」受け入れ企業募集の案内が来ましたので、回覧します。学校の夏休み期間中の1～3日程度の体験学習となります。

2) グローバル財団奨学生として応募されてきた藤田葉月さんの面接を先週例会終了後に R 財団委員長の前田さんと共に行い地区に推薦しておきました。ペンシルベニア大学で職業訓練・能力開発の政策立案を学ぶその先は国連開発計画 (UNDP) の職員となり開発途上国での人材育成事業の手助けをしていきたいとのことでした。何とか選考に選んで頂きたいものです。

3) 2023-24 年度地区補助金プロジェクト募集の案内が参りました。申請期限は 2 月 28 日です。各奉仕活動のリーダーはこれを有効活用できないかお考え頂きたく存じます。

4) 地区より入会 3 年未満会員対象の交流会が 3/24(金)17 時よりインターコンチネンタルで開催するとの案内がきました。該当する会員の方はご参加ください。

5) ローターアクト関東ブロック研修会 (4/29-30) の案内が届きましたので、回覧致します。

6) 3 月 12 日に関東学院中学校高等学校で国際交流「和」の集いが横浜南 RC 主催で行われ、米山奨学生・学友が招待されています。参加費無料昼食付です。案内を回覧します。

7) 会長幹事会が 3 月 16 日に開催されるとの案内がきましたので、出席してきます。

■幹事報告

例会臨時変更のお知らせ

○横浜瀬谷ロータリークラブ

3 月 17 日(金)→移動例会「横浜市庁舎見学」

3 月 31 日(金)→夜間移動例会

点鐘 18 時 30 分 場所/新横浜グレイスホテル

○横浜南ロータリークラブ

3 月 18 日 特別休会

3 月 25 日 創立記念例会 (夜間)

○横浜港南台ロータリークラブ

3 月 27 日(金) 夜間例会

■ニコニコ BOX

安藤 公一/①佐藤利明さん本日の卓話宜しくお願ひ致します。

②皆出席表彰ありがとうございます。「あっ」という間の 18 年でした。これからも宜しくお願ひします。

新川 尚/無事パキスタンから戻って来ました。帰国してみると、日本はなんて素晴らしい国なんだと改めて感動しました。

佐藤 利明/久しぶりの卓話です。おもしろくもない話ですが、お付き合い下さい。

関口 友宏/①新川さん、パキスタンでの奉仕活動ご苦労さまでした。

②佐藤利明さんの卓話楽しみです。

五十嵐 正/①佐藤利明さん、本日の卓話楽しみにしております。お手柔らかに。

②新川さんパキスタンでの奉仕活動お疲れ様でした。

田川 富男/佐藤利明さん、波乱万丈の人生卓話を宜しくお願ひ致します。

岡田 隆/佐藤利明さん、本日の卓話楽しみです。よろしくお願ひ致します。

北澤 正浩/佐藤さん、卓話楽しみにしております。

平子 智章/佐藤利明様本日の卓話宜しくお願ひします。楽しみにしております。

内田 敏/佐藤利明さん、本日の卓話楽しみです。よろしくお願ひ致します。

■卓話/卓話徒然に想う

佐藤 利明

今日話すことは、以前の卓話と重なる部分が多々あると思いますが、メンバーの顔ぶれに新しい方もおられるので、お許しいただきたく冒頭にお断りしておきます。



烏兎忽忽とは言いますが、時のたつのは早いもので、この世に生を受け年を重ねること 81 年、1 ヶ月後には満 82 歳になります。旭 RC の現会員で、二番目の長寿会員になりました。

ロータリークラブに誘われて、何も判らず入会し、多くのことを、学ばせて戴きました。

ロータリーは人を作るといふ。「ロータリー精神」「奉仕の理想」「親睦と友情」等々、私の人生に大きな、変化をもたらして戴きました。ロータリー歴 40 年も含めて、歩んできた道を振り返り、自分として、毎日の様に、頭の中を巡っていること、今迄やってきたこと、言ってきたこと、又、考えてきたことを、今後のことも含めて、話してみたいと思っています。

一度の人生、この世の中、一回こっきりの人生、須らく、自らに与えられた人生を平々坦々と歩みたいと思ってきました。そして自分として、何方でも同じと思いますが、自分が正しいと信じて生きているわけですので、自分なりに、それなりに評価しています。自分を評価できなくて、どうして、長い人生を生きて、いかれるだろうか、自分を信じ、生き、自分の考える様に、生きたいと思っております。

私は人後に落ちることなく、自由奔放に生きてきました。

趣味というか、道楽というか、交友関係も幅

広く、あらゆる社会の人と接し多くの経験をし、人との交わりを大切にしながら、時には、肝の縮む思いもし、又、嬉しさに歓喜もし、世間の裏表をも見てきました。そして時には励まし合い、助け合う、場面にも遭遇しました。私に対しての評価は様々だと思うが、自分としては、精一杯の生き様であったと、自分に対して合格点であると評価しています。

ある人が言っていた言葉ですが「太陽がなければ、月は光らない、だが月がなければ、太陽の明るさは際立たない」いい得て妙、正に至言ですね、お互い、相手の存在を認め合わなければならない。何か事を起こせば、壁に突き当たる。そして思い通りにいかない。寧ろ思い通りに、いかない方が、儘あると思う。そこで人間一人では生きていけないと気付く、そのような時、友人知人の、知恵・力を借りる、いうまでもなく家族の存在も然り、人生って障害物競争みたいなものであると思っています。一つ一つ乗り越えて、いかなければならない。今日は昨日の続きですが、昨日と全く違う、今日はありえないわけです。私の尊敬する中村仁一先生の至言ですが「世の中は今日より、外はなかりけり・昨日を過ぎて・明日は知られず」又、「今という・今こそ・今が大事なり・大事の今が生涯の今」どんなに良い過去があっても大切なのは今とこれから。今、大切にしなければ、ならないものは何か。又、今の後どの様に生きていくべきか。その時代、その時代に生きる意味さがしの日々でもあると言うことです。

人生を生きるのは、大変ですよ。苦しい時もあったけれど、人生捨てたものでもない、けっこう楽しかったことも多々あったわけです。この世は楽しんでこそ人生、楽しまずして何の人生ぞ。

私は病気・ケガが多く、手術も含め、病院入院歴は12回もあります。病気をしてみると、死が遠いものではなく、身近に足音を立ててやってくるのに、気が付くわけです。そして一回こっきりの人生、いやでも「老・病・死」と向き合わなければならない。結局のところ「老い」に寄り添って拘らず、「病」には連れ添ってとらわれず、「健康」には振り回されず、「死」には妙に抗わず、これから先、許される限り、出来る限り、迷惑の掛からない様に、生きたいと思っております。

これから先の命について考えてみた。命とは、命を支えるということは、どういうことなのか。

最近、「ケア」という言葉をよく耳にする様になりました。

「ケア」という、カタカナの言葉に相応しい、日本語は何だろうと、探してみた。「面倒をみる」に辿り着いた。この言葉で全部言い尽くされている気がする。「ケアの本質」を考えた時、「面倒をみる」非常にいい言葉だと思いました。何より私達は、子供の面倒をみるわけですし、親の面倒をみるわけですね。それから自分の面倒をみるわけです。抑々「生きる」ということ自体、セルフケアという面があって、食事をする、調理をする、風呂に入る、これらは、みな「自分の面倒をみる」セルフケアだと思います。面倒をかける人がいて、面倒をみる人がいる。どちらも大切な存在なのですね。

命を支えるということは、命を支えられることなんだと、気が付くわけです。

人を幸せにするって、どんななのだろうか、人を慈しむって、どんななのだろうか、答えは一つではないと思う。

私もいくつまで生きているのか判りません。だから今を大切に生きるしかない。人間の心をおき忘れつつある現在の社会、心の触れ合いを感じる様な生活を望みたい。しかし、世の中は生きづらい、夢なんて・希望なんて。持てない時がきてしまった様な気がする。それでも、生きていれば、命ある限り、諦めないで、与えられた命の分だけ、自分らしく生きればいい、生きて生きて生き抜いて、生き続けることが大事なんだと、トラブルに遭遇したら、乗り越えれば、自分は一段階スキルアップできると信じて人間的にもステップアップするチャンスなのだと、前向きに考えたい。常に前を向いていれば、かすかでも光りも、とらえることが出来るものだと思う。

人生は他の人が代わりに、生きることは出来ない。当たり前のことですね。親だって、友人だって出来ないわけです。たった一度の人生を丁寧に生きていくためには、全力を出して、この後どう生きるか。迷った時、判断がつかなくなった時、浅学非才の私は先人・偉人の訓導に頼ります。それは中国の処世訓「菜根譚」であり、二宮尊徳の「報徳仕法」であり、松下幸之助氏の「道をひらく」であり、稲盛和夫氏の「生き方」であったり、現在活躍されている鎌田実先生の教えでありました。

若い頃たくさんの本を読みました。様々な書物を幡きました。特に城山三郎、山本周五郎を

好みました。初めて買った本は、尾崎士郎の「人生劇場」でした。飛車角と吉良常の生き方に吸い込まれ、そして吉川英治の「宮本武蔵」に夢中になった。武蔵はものすごい数の真剣勝負重ね、剣術の頂点を目指し、そしてその一回一回に命をかけていた。試合を重ねるたび歳月を過るたびに、心の持ち方、考え方が成長するさまが、如実に沢庵和尚の教えに近づき、人としての誠に到達するさまに。非常に感銘を受け、以来覚悟をもって、日々生きることを、人生の目標としてきました。

人生は覚悟と根性と工夫、そして希望を持ち、勇気をふるうことが大事だと、だが時として諦めること、一步引くことも大事だという。希望とは「生きる誇り」だと言っておられた人がおりましたが、希望とは「望み希う」ことでもあるわけです。人には行く道、通る道がいくつもあるという。

いつか屹度、自分に相応しい、豊かで味わいの濃い人生が来ることを、希い願う様になりました。それは誰も通ったことのない、ユニークな道かもしれないが、それだからこそ自分らしく夢を拓きたい、しっかり歩きたい、毅然としていたい。押し並べて、一生涯をかけて、自身の意思と努力で、人格を磨き、器を大きくしようと努めてきました。そして人間らしく「老いること」それぞれ年令に相応しい、心構えと智慧を持ち、何事にも精進したいと思っております。私たちの心は肉体よりも年をとっているか、遅れているか、どちらかであると言われております。人は生まれ、育ち、衰え、そして死ぬ。生きとし生きるもの皆、この順序を踏んで行く、人は生きるために生まれてくるのだが、人は生まれてくる時は泣きながら生まれてくる。嬉しくて泣いているのか、悲しくて泣いているのかは判らないが、笑いながら生まれてくるとは聞いたこともないし見たこともない、だが死ぬときは周りが泣いてくれる、であるから人生は笑顔のある、笑ってすごせる日々を送りたいものである。人生は一日一日が死への旅路でもある。人はいかにして、良く老いることが出来るか。死という目に見えないもの、経験したことのないものを、恐れるのは、極めて自然のことで、今も刻一刻と死に向かって歩み続けている漠とした、恐怖感拭えないし、衰えゆく体力、内面を考える時、少しでも時間が止まってほしいと思う時もある。ではあります、記憶力、体力は衰えても、心の炎だけは燃やし続けたい「鉄心石腸」の思いで慌てず、狼狽えず、淡々

としていたいとも思う。

近頃、親しくしていた友人が立て続けに亡くなり、身近な人の死を幾度となく経験している。やりきれない心情になる、非常に残念である。人はいつかは必ず死ぬ。地位も名誉も財産も妻子もおいて死ぬ。自分の死んだ後の妻の生活はどうなるのか。息子・娘・孫にしてやれることは何か、等々、思いの内に残された日は一日一日減っていく、朝の紅顔、夕べの白骨、というのが、いつか必ず死ぬ時がくる。しかし、いつか必ずという、そのいつかは判らない、判らないからいい。

家族について、人間の家族は不思議だと思えます。怒ったり・許したり・悲しんだり・喜んだりするなかで多様なカタチが作られてきた。社会的に成功を遂げた方の多くは素晴らしい家族を持っている。家族を本当に大切にしておられる。だが一方で不思議なことに家族って、生活が豊かになれば、なるほど、家族の絆が弱まるようにも感じる。不思議ですね。人間って貧しい時、苦しい時は絆を深める習性があると思う。私の場合、一家を構えた時の嬉しさ、子供の誕生の喜び、子供を失った時の悲しみ、忘れられない、忘れたくない、又、思いがけない焼俵に恵まれた時もあったし、事、志ざしと違った時もありました。いろいろの思い出が走馬灯のように巡ります。

この世に生を受けて81年、一目惚れして一緒になって58年「惚れてはまれば、泥田の水も呑めば甘露の味がする」というが、常日頃「好き」だの「感謝している」だの言わないが、幸せを味わいながら、仕事家族に、すべてををかけてきました。今では女房は少し足が不自由ですが、元気で大好きな麻雀を楽しみにしております。内田敏様御夫妻にも、お付き合いいただいて、麻雀を楽しみに、呆け防止に励んでおります。

私は仕事・友人・家族にも恵まれました。運も良く、ツキもあった人生に、心から感謝しております。そしていつの間にか、極めて自然に老いが来てしまい、老夫婦としては日常のささやかな営みの中に幸せを求め、今は「毎日が日曜日」の様であります。

「日々是好日」であります。正に我が人生に悔いなし。子供たちに大事にされて、残された日々も長くはないので人生旅の終りを一日一日を大切にしたいし、孫たちから「ウチのジイちゃん」頑張ってるね、と思われる様。

■次週卓話 3/8 関口大樹会員